

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.03) 平成23年度:157.

大学生へのHIV/AIDS予防教育の取り組み

林 有紀

大学生へのH I V / A I D S 予防教育の取り組み

旭川医科大学病院 看護部 林 有紀

私は拠点病院対象の海外研修参加をきっかけとし、自分がA I D S 患者に出会ったときに感じた戸惑いや無力感、学生時代に抱いていた性への認識を振り返ることができた。その振り返りをもとに、自分を大切にすることからはじめる性感染症予防、H I V / A I D S の予防や早期発見の大切さを伝える講義活動を始めて3年が経過した。

対象は医療系大学の健康教育論と教育系大学の性教育学講座を履修する大学生であり、各大学で年に1回講義の1コマを担当した。60分程度で①海外研修の概要とそこで感じたこと②A I D S 患者への看護を通して感じたこと③現在の日本・北海道のH I V 感染の状況④性感染のリスクと予防について⑤感染が判明した人の声⑥自分自身が大学生だったときの行動と⑦H I V 検査の紹介⑧自分自身を大切にすること、を講義した。毎回終了後に、感想や意見、自身が行動できることなど自由記載の無記名アンケートを実施した。

結果、＜避妊具の適切な使用、周りに流された安易な性行為をしない、自分には関係ないという意識を捨てるのが、予防のためにできることだと思おう＞＜高校でもこれくらい詳しく教える必要があると思った＞＜義務教育の段階でもっとコンドームの意義を教えることが必要。大きく報道もされないのが、劇的な意識の変化は難しい。結局、今回のような活動を地道に続けていくしかないのかもしれない＞＜高校の時にウィルスの仕組みやA I D S とは何かについては詳しく学んだが、実際の感染者や

発症者の数や事例に触れて驚いた＞＜多くの事例を紹介して話を進めてくれたので、自分には関係ないと思っていたことが危険な考えであったことがわかった＞＜H I V 感染者に対して偏見を持ってしまっていたので深く反省した。周りの人の感染が分かったら、理解を持ってサポートしていきたいと思った＞＜これから教師になるうえで自分自身が性についての知識を深め、子どもたちにしっかりと性教育をしていきたいと感じた＞などの感想があった。

H I V / A I D S の新規報告は男性同性間での感染が著しく増加しており、男性同性愛者を対象とした予防啓発や対策が重要といわれている。一方、社会全体で感染者をサポートしていくためには、一般的な知識の普及もまた重要である。大学生からは、さらに低年齢から詳しく教えるべきとの意見もあり、性が身近な年代となり新しい知識を獲得したいという欲求を持っていることがわかった。意識の変化や維持は簡単ではないが、現場の声に学生の関心は大きく、現状を伝え続けていくことが看護師からできる予防教育であると考えている。また、今後の看護や教育に生かしたいという声もあり、医療系大学や教育系大学を対象とした啓発活動は、将来感染者を支える医療者や子供と関わる教育者の理解を深める意味で重要であると考えている。